

松 籟



クラブ会長テーマ 『感謝の心で奉仕する』

335 - B地区7R1Z

堺浜寺ライオンズクラブ

2004/7 ~ 2005/

クラブ誌 手作版 後期号

新 入 会 員 募 集



楽しいアクティビティーに参加しませんか

〒590 - 09

大阪府堺市戎島町4 - 45 - 1 リーガーロイヤル堺9階

TEL 072 - 224 - 3301 FAX 072 - 224 - 01

URL=<http://www.h6.dion.ne.jp/~hamadera/>

MAIL=hamaderalion@k5.dion.ne.jp

発行：浜寺ライオンズクラブ・PR・IT委員会

発行責任者：松井 道一

第一副会長としての一年を振り返って！

第一副会長し・北村 國雄

経済の低迷と、会員の減少の中で、我、堺浜寺ライオンズクラブも、今年度で、チャーターナイト四十周年を迎えました。周年行事と重なる中で、第一副会長関係も当初の目標を達成出来、ここに報告させていただきます。

出席・大会接待委員会
各種大会参加等積極的に努めて頂き、当初の目標純出席率九十% 以上、修正出席率百%の目的を達成する事が出来ました。

会員・会則及び付則・指導力委員会
会員の増強及びクラブ内規の認識と理解を深め、目標五名を達成しましたが、残念ながら退会者四名もあり、結果的に、一名増となりました。

財務委員会
厳しい予算の中で、クラブ運営に関わる、金銭の徴収、例会での集計等を迅速、且つクリアにする事が出来ました。

計画委員会
例会、合同例会におきましては、この一年間色々工夫をして頂き和やかに、楽しい例会が出来たと思っております。

PR・IT委員会
毎年の事ながら最大のイベントである、平和ボスターコンテストを、少ないメンバーで達成出来、ホームページを通して、広く一般にPR出来たと思います。

第一副会長関係の皆様方には、この一年間大変お世話になりました。有難うございました。



テーマを楽しむ

当クラブには、テーマの仕事の一つにお楽しみ抽選の運営がある。勿論計画委員会の下に運営されているのだが、ライオンテーマに任されているところがある。私はこの運営を楽しみにしている。予算に限りがあるので消えてなくなる食べ物や商品として選ぶことにした。季節感があってちょっと珍しい物と書き出してみましたが、なかなか思ったようには行きません。またこれと出している商品がメンバーの皆さんに喜んでもらえているのかどうか心配で堪りません。その反面少しの反応にも楽しんでる自分を感じては、うきうきしています。一年に一回は当たって、の気持ちではいるのですが、運不運はあるものでなかなか賞品を当てられない方がいるものです。少しは責任を感じなければいけないのでしょうか？あと少し、最後までまっとう出来るように頑張ります。勿論備品の

テーマール・上総 茂徳

昨今の会員維持で感ずるも

一本の灯りとしてウイサーブの輪に、仲間入りさせて頂いて早三十年を迎えようとしているが、最も大事な会員間の友愛と相互理解に、少なからず努力して且つ寄与できたと思う。想い巡らすなかで、健康上止むなく同志としての路を歩めなかつた方、事業の遂行に事情を来し社会奉仕に精進出来ず、しかも常に会員の尊敬を、集めクラブの発展に尽くされた物故ライオン。過去の労力奉仕を想い浮かべるとき、メンバー一丸となつて力の限り、成しえた奉仕に充実感を覚え、お互いの存在価値を認めあいクラブに明日への期待が漲っていたように思える。経済情勢の急激な移り変わりと共に情報伝達の超スピード化、奉仕先の変貌ぶり、システム化されつつ有る奉仕活動、何か心うつものが欠けているように、ウイサーブの原点を模索し、真の友情と誇りを分かちあえるクラブライフに向かって、努力してこそ会員維持、会員増強が成しえると確信し、自らも戒め微力ながら頑張りたく考えている。

会員理事し・吉田 吉良

昨年の第一回準備理事会を始めとし、今日に至るまで、会長より各委員長、副委員長への依頼事項を元に、各委員会が一丸となって、労力奉仕を含め、当初目標としました奉仕活動が無事実行されて来ました。特に事業関係の各委員会では、自分本来の職業と両立しながら、クラブで与えられたそれぞれの職責を、不平不満もなく、努力をされるひた向きの姿を見る度に、感動を覚えました。担当委員会の皆様、本当にお疲れ様でした。……………。特に今年は、40周年記念事業が無事施行され、成功裏のうちに終了した事は、昨日の事のように深く印象に残っております。中でも諸先輩メンバーの皆様が、40年間絶え間なく積み重ねて来られた地域社会への奉仕活動は、同じメンバーの一人として、感謝し誇りに思います。この様な立派な歴史と伝統を引き継いで居る我々は、一つ一つを大切に、未来に向かつての奉仕活動を真摯に実行し、地域社会に貢献し、愛されるクラブの一員として末永く勤めたいと思います。



幹事としてこの一年

会長テーマであります「感謝の心で奉仕する」の基、スタートした今期も間もなく終わろうとしていきます。昨年まではクラブのことはなにも解らずライオンとは名ばかりで、幹事としましても何かと至らぬところの多い私でございましたが、会長はじめ理事会やメンバー皆様方いろいろと教えて頂き、今ではやっとライオンの仲間入りが出来たように思います。皆様方には、この場をお借りして心より深く感謝申し上げます。そして、当年度はCN40周年という大きな節目の年であり、話に聞いていたよりも、遥かに忙しく長い一年でございました。しかし、このような年度に幹事をさせて頂き、めったにさせて頂く事の出来ない経験ができて、とても充実した一年だったと思います。次年度からは、この経験を生かして更なるクラブの発展に貢献していきたいと思っております。 どうも有り難うございました

幹事 L・川口武史



愉快的例会を心がけての一年

愉快的例会も残す所、後三ヶ月足らずと成り、何とか無事使命を果たせる事が出来そうで、嬉しく思っています。今期テールツイスターを命じられた時、私は我が、堺浜寺ライオンズクラブの、テールツイスターをなされました諸先輩の皆様方の御活躍を拝見しておりますと、教養が無いと務まらないように思え、私では到底永い道のり、最後迄は続かずに途中でリタイヤするのでは無いだろうか、不安と心配で大変憂鬱でしたが、松井会長初め諸先輩の皆様方より、楽しく、面白くやつてくれたら良いと、アドバイスを頂き少し安心致しました。私は余り硬いお話し出来ませんが、皆様方の少しでもお役に立つ、何か愉快な良い話題は無いものかと考え、「日常の此処だけのお話」とか自分勝手なテーマをつけ、自分なりのプログラムを作り、準備をして、スタートをさせて頂きました。前期は殆ど時間が無く、ドネーションの発表を面白おかしく、一人芝居で発表する時間だけで終わってしまい、何時の間にかドネーションの後藤と言っニツクネームが付いていました。残された期間メンバーの皆様方には、より一層の素晴らしい事が沢山あります様に影からお祈りさせて頂き、皆様方の素晴らしい出来事が少しでも、ドネーションとしてクラブに還元され、財務が少しでも豊かになりより一層楽しい例会になりますよう願っております。後三ヶ月余りしか残っておりますが、何時も楽しい(面白い)例会になる様に工夫して頑張りたいと思っております。どうか最後迄メンバー皆様方のご協力宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、この一年メンバーの皆様方には、テールツイスターの活躍の時間において、無礼な事も多々有ったかと思いますが、どうか寛大なお気持ちでお許し頂きます

アクティビティ

『3.6水辺のクリーンアップ大作戦』



大和川クリーンアップキャンペーンに参加メンバー



春の交通安全運動阪和鳳自動車学校での参加



**体験コーナー
シートベルトの安全効果
救急処置の実習と体験**



趣味の部ゴルフ愛好

皆で楽しいゴルフを・ゴルフ部長 L・磯

本年度（平成16年7月～平成17年6月）のゴルフ部長をお受けし、はや半年以上を経過しました。当初の計画により、本年度は6回のコンペを開催する事としました。振り返れば、我がゴルフ部も180回（本年5回目平成17年4月6日開催）ものコンペを行う事となり、いかに歴史と伝統のあるゴルフ部であるか分かる所であり、ます。これも歴代ゴルフ部長はじめ、ゴルフ部会各位のゴルフ部長に対する熱意と、ゴルフ部へのご協力に他ならないと存じます。ゴルフ部は、現在27名の会員を有し、毎回コンペにおきまして5組前後の人数でラウンドを行ってまいります。親睦と友愛を、又楽しく愉快なライオンズスピリッツに溢れた仲間と共にゴルフが出来ないでしょうか。本年度6回目（第181回）のコンペを遠征コンペとし、開催場所等を検討している所であり、ゴルフは男女共に出来る楽しいスポーツです。又年齢を問いません。ゴルフ部に入会しておられ皆様、ぜひこの機会に入会をお進めします。ゴルフ部を通じて皆様と共に楽しい一時を



第180回コンペ万壽ゴルフクラ



優勝 L・L・後藤グロス84
HC10.8 NET73.2
準優勝 L・後藤グロス89

俳句部

松籟句会吟行一人一句 俳句部長 L・平井



奈良春日奥山春日大社寺院にて
大賀蓮いまを開花の万葉園
老鷲や原始林への道紆余に
平井真佐雄
平井喜世子

大阪長居公園にて
虫籠の袈裟懸け大事園ゆく児
仲西 健豊

三田市永澤寺蕎麦畑にて
廃屋に隣りて今をそばの花
木村 信幸
木村 栄子

秋日和来て三尊に迎えられ
立礼にけふを活けたる秋七草
村上 静子

仁徳天皇陵堺市博物館周辺にて

洛西大原野善峰寺十輪寺参詣にて
業平の墓は素なりき紅葉散る
宮部 嘉博

南港野鳥園なにわの海の時空館にて
探鳥の双眼鏡に冬の雲
宮部志都代

今宵宵戎の参拝となんばグラウンド花月の観劇にて
出囃子に期待のかかる初寄席に
荻野 克美

金剛山探索同好

副部長 L・村上 英雄



L・中原 1010回 L・荒木 620回
L・村上 470回 L・片岡 340回
L・片岡 110回 L・村上 15回
L・木谷 10回 この松籟が皆様の
お手元に届く頃には、各メンバー
の登拝回数も、上記以上になつて
いると思ひます。五月三日、五月
晴れで大変爽やかな十時ごろに、
国土地理院一等三角地点付近で、
お互いの健登を励まし記念撮影を。
あたりには、カタクリの花が名残り
を惜しんで咲いていました。
フイットネスを考えている方、脚、腰
を鍛えて熟年を謳歌しようと考えて
いる方、どうぞ私達と一緒に登り



日本からは、地球の裏側になると云う最遠の国に少々のとまどいをしながら、家内の強い意見におしきられ行くことになった。三月五日より十八日間の旅である。伊丹羽田 成田国際 ロス空港 サンパウロ リオデジャネイロと乗り継いで、所要時間三十時間余りである、かつて我々の先輩は移民船が三十日余りを用いて渡伯した話を聞くにつけまるで夢のようである。日本との時差 十二時、気候は全く正反対で夏であります。三月の平均気温約三十度C（但し昼間）。最近政治、経済面で、BRIC（ブリックス）と言う言葉が注目されておりますが、ブラジル・ロシア・中国・シンガポールと、世界的に注目をあびる国の一つであり、ブラジルは鉄鉱石を中心に地下資源の上に各種農産物を有する地上資源の豊富さがありません。旅の目的は、イグアスの滝の見学でありまして、ナイアガラ滝（アメリカ・カナダ）ピクトリア滝（南アフリカ・ジンバウエ）と共に世界の三大・大滝を制覇することになりました。アマゾンの大自然の中で豊かに流れる水源が、百メートル余りの落差で落ちて、数キロに渡り滝が数十箇所存在する規模の大きさである。ヘリにて上空より、川側道より上流の川に渡る見学橋より、又下流のボートで滝中迄の見学により、マイナスイオン一杯体につめこんで参りました。機会があればサンパウロ・リオデジャネイロ・イグアス・マナウスとそれぞれの町の話を見せて頂きます。（長旅の機内で、つれづれなるままに一句）啓蟄や我が旅の先ブラジルに

ひよんなことから アメリカ人の結婚式に招待された。L・片岡



式は2004・8・7会場は米国サンフランシスコから、北へ300kmあまりの西海岸に面した田舎リゾート。家内と相談して、めったにできない経験なので出席する事にした。サンフランシスコ空港から、予約しておいたレンタカーに颯爽と乗り込んだのはよいが、フリーウェイはかなり速いスピードで車が流れる。横文字でかいた標識など、ゆっくり見ている間はない。おかげで、ゴールデンゲイトブリッジを渡るまでに3回も迷い道。でも 慣れてくると結構快適に、大平原と緩やかな丘陵地帯を走り、フリーウェイを200km位行ったクローバーデールという所までたどり着いた。そこからは100kmの山道をくねくね通って、やっとの思いで西海岸の美しい景色のみえるメンドシーノに到着。緊張して運転していたせいか、疲れが一度に噴出した。宿は1850年代に建てられたかなり古いものを、手を入れ保ち続けていると言った感じの物。海に面した美しいイングリッシュガーデンがあり、庭の中にもコテージがあり、すぐぶる伸びやかで落ち着ける雰囲気である。その夜は宿から8マイルほど離れた、新婦のおばあちゃんの家での前夜祭に呼ばれた。そこは鬱蒼とした森の中で、人家の灯りなどまったく見えない道を10分程進むと、前方に微かな明かりと人の動くのが見えた。森の中の大きな庭に飾りのついた美しい大きなテントが張られ、テーブル椅子がそれなりにセットしてあり、親しい友人や親戚の人々がワインを飲み料理を食べながら楽しく語っていた。われわれもすぐに仲間に紹介され、矢継ぎ早の質問を受けながらワインをよばれ、いいかげんな英語で、大いにコミュニケーションをはかった。新郎新婦も前夜祭とあつて非常にラフないでたちでモグモグ喰いガブガブ飲み、大声を出して楽しみながらゲストをもてなしていた。なんと開けつぷろげ！びっくりと同時に感激もした。両親やおじさんおばさんも本当に気さくで堅苦しさなど



微塵もない。これがこの国のお祝いの仕方なのか・とつくづく感じた。翌日の結婚式にはもつとびっくりした町の外周を海に沿って走る道から200m位突き出した、ヘッドランドという岸壁に囲まれた屋外で、2、300人の人々が集まって式は行われた。参列者や新郎の待つているヘッドランドに向かってウエディングドレスを着た新婦がブライドメイドを従えて歩いてくる。海沿いの強い風にベールをなびかせながら ゆっくりとバックの空のブルーと海のエメラルドグリーン 薄い褐色の草の中を白いドレスが進んで来る。まるで映画の1シーンのようであった。レセプションは昨日のテント会場。きちんとテーブルが、セツティングされ敷物もしかれた大会場に150、200人位のゲスト。でも最も長老の方のジョークを交えたユーモラスなスピーチが1つあっただけで、後は司会の人々がゲストを楽しく紹介したりバンドの演奏があつたりで、ゲストも新郎新婦もみんな大いに祝い楽しんでるようだった。宴の途中で新郎新婦のスピーチがあり、会場は大いに盛り上がり、後は飲んで食つての大宴会。まさにオープンでフランクなアメリカの結婚式と披露宴だった。